

地域林政対談 イン熊本

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局等の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」をスタートさせました。

第七弾は、上田泰弘美里町長、梅田穰山都町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



内大臣橋(山都町)



緑川ダム(美里町)

シカ被害対策は出口まで考える必要「美里町長」

森林の機能が十分に果たされていないために、災害が多発しているように感じる。流木が河川をせき止めたり、下層植生のない森林が多くなったりしているので、森林の大切さをもっとPRしていく必要があると思う。森林環境税を早期に創設して、財源の減らされている分野にもう一度目を向けさせる必要があるのではないかと思っている。担い手の問題もあるが、森林に目を向けた財源確保が必要と思っている。財源さえあれば次の手を考えられる。

もう一つ問題なのは、シカ被害。農地も含めて何とかしなければならぬ。わなで捕まえたシカを殺した後どうするんだというステップも待っている。食肉用に供するにも、加工場があればいいが、安定的に供

給できるのかという問題がある。現時点では燃やすしかないと思っており、焼却施設をどうにかできないかと考えている。捕った方がいいがその土台がなければ最終的な出口はどうするんだっていう話になる。



上田泰弘 美里町長

スギの一斉林ばかりでなく広葉樹の山も必要「山都町長」

過度な皆伐が起きている。林道も縦横無尽に走らせている。地震の影響もかなりあったと思うが、その結果が緑川の災害だったと思っている。民有林なので管理は難しい。森林の保水能力がなく、一気に水がきたのが一番の原因だと思っている。その前の5月の水害より雨量は少なかったのに、被害は甚大だった。地震の影響もあるが、山のあり方が問題なのではないかと思っている。

木材利用については、建築基準法や消防法により木材が使えない状況となっている。また、木造住宅は高いと皆思い込んでしまっている。実際はそんなに高くないのに、その意識がある。

シカの話は、たまたま先日行ったらシカ柵の中に1頭入っていた。すぐ猟友会に来てもらったが、聞けば以前も数頭入ってい

た。シカ柵をしているにも関わらず、入ってきて皮を剥いしまう。その対策をどうにかしなくてはいけない。杉の一斉林ばかり作るのではなくて、混合林とか広葉樹もある程度植えるなどしていかなくては被害はなくならないと思っている。天然林を切りつくしてしまった。昔は山桜の花がだんだん山を覆っていった。



梅田穰 山都町長

● 木造建築の設計ができる人材を育てていく必要

林業の成長産業化の実現に向けて、林業活動で生産される木材の需要先をいかに増やしていくか、ということが重要な課題です。

美里町長 木材需要の話で、CLTの活用について、オリンピックでPRできるのかなと思っている。今は、高いということもそうだが、木造で4階建てということになると構造的に弱いのではないかとこの固定概念がまだあると思う。オリンピックでの活用を見てから普及が進むということになるのではないかと思っている。

九州森林管理局長 ヨーロッパでは木造の高層建築物が普通に建てられている。木材の良いところをよくPRしていく必要がある。

山都町長 木材の知識については、日本ではマスコミを通じて、偏った学者の考えが蔓延していると感じる。

局長 公共建築物のうち3階建て以下なら約50パーセント近くまで木造化が進んでいるが、全体で見ると3割程度にとどまっている。木造の設計ができる人材も限られている。

熊本県宇城地域振興局林務課長 宇土市の庁舎について、地震で庁舎被災して再建するが、今年基本計画を立てて、30年度実施に設計、31年度に着工する予定。木造化は厳しいが、内装の木質化を進めようという動きが出ている。

熊本県上益城地域振興局林務課長 木材需要については、なかなか新たな需要の創出というのが難しい状況。木材のイメージをどう高めるか。県では、熊本地震による木造住宅に対する悪いイメージをいかに払拭するかということで取り組んでいる。「柱90本」事業ということで、地震からの復興住宅をメインに供給していこうと考えている。また、個人の住宅はもちろん、公共建築物に木材を使ってもらおうということで、PRを進めている。山都町では観光文

化交流館を始め、庁舎にも内装に木材をふんだんに使ってもらっているところ。公共施設の木造化・木質化を重点的に進めていきたい。

製材品については、ランバーやまと協業組合が、全国に向けて、ヒノキで胴差し、野地板等を作るなど積極的に頑張っている企業もあるので支援していきたい。また、木質ペレット工場である河津造園が、ハウス園芸の燃料として重油に変わるものとしてペレットを作っているので支援をしていきたい。

また、上益城高等職業訓練校があるが、木造建築ができる人材を育てている。在来工法などの技術を教えているが、木造建築ができる大工を育成していくことも必要と思っている。



内装木質化されている山都町庁舎

●シカ対策は関係者が一丸となった対策が必要

現在、九州全体的にシカ被害が拡大している状況です。市町村、県、国有林など、関係者が一丸となつて対策に取り組むことが重要です。

局長 シカ被害については、下層植生が全くなくなるなど、全国的に甚大な被害が出ている。こういう状態になると植生が回復するのが困難となる。九州全体で43万頭のシカがいると言われているが、数を減らすことが重要であり、地域一体となつてくくり罠などで捕獲していくことが必要である。山都町とは既にシカ被害対策に向けた協定を締結しているが、美里町でもぜひ協定を締結して民国一体となった対策を進めていきたい。

美里町長 よろしく願います。

局長 シカの処分については、捕殺後のシカを腐敗させ分解する強力な菌が開発されている。一週間くらいで分解してしまうという強力な「エスパス菌」という菌で、必要なら情報も提供したい。

山都町長 昨年度、町内で捕獲したイノシシが約3千9百頭、シカは1千3百頭。捕ったあとの処理に苦慮している。今年中に処理場は稼働させるが、処理できるのは約1割程度ということで対応に苦慮している。山に放置されているものも多い。ぜひそういう情報を提供してほしい。

宇城地域振興局林務課長 シカ被害について、プロット調査で食害と剥皮被害を取りまとめているが、県全体で新規の被害が年1千ヘクター程度。鹿本で初めてシカ被害が確認されるなどしたほか、菊池や芦北などでは今まで確認されていなかった地点にも広がった。

また、宇土半島には特定外来生物のクリハラリス（タイワンリス）がいる。平成20年に確認され、県や森林管理署で協議会を設けて対策を行ってきた結果、当初は55〜6千頭いたとされていたが、平成22年度

から捕獲を始め、徐々に減少しており、昨年32頭にまで減少したところ。しかし、根絶するのが難しい。今年環境省が監視カメラを付けて、見つかったところにワナをかける取組を進める。国有林周辺で捕獲数が多い状況なので、協力をお願いしたい。



シカ被害対策協定（熊本森林管理署、美里町、熊本県猟友会美里支部）



シカ被害対策協定（熊本森林管理署、山都町、熊本県猟友会矢部支部・清和支部・蘇陽支部）

●生産性の向上と造林コストの低減により林業の成長産業化を

現在、九州の人工林の多くが伐採時期を迎えています。伐採時期を迎えるということは、伐採後の再造林が必要な箇所も増加しているということ。持続的な林業経営を実現していくためには、この再造林に要する経費の縮減を図ることが重要となってきています。

局長 主伐期を迎える中、これからの森づくりについては、持続的な林業経営をやっていく森と、保全を重視して混交林に誘導する森とゾーニングしていかなければならない。大分県豊後大野市と宮崎県木城町では、ケーススタディとして森林所有者の理解も得ながら、県の担当者と一緒に、市町に対して森づくりの支援を行っており、多くの成果を挙げている。これを各地に広げていきたい。県、市町村のフォレストと連携して宝の山を未来に繋げていく取組を進めていきたい。

山都町長 持続的林業をするためには、材価が上がらないとダメ。ヘクタール当たり造林経費が約2百万円とのことだが、材を出しても2百万円の収益は上がらない。木材需要を拡大していかないと、持続的な林業は守られない。経済性を求めた結果が、今の林業の現状を招いたと思う。

局長 林業は木材の関税が自由化している中で世界とどう勝負するのが課題である。事業体を育成して生産性を上げること、伐採後の造林コストを下げること、という両輪で林業の成長産業化を実現していかなくてはならない。国有林では、そのための実証試験を積極的に行う予定である。エリートツリーなども開発されていて、短伐期で循環する林業にも取り組んでいるところであり、そういう新しい技術を組み合わせる林業の技術革新、地域の活性化に結びつけられればと考えている。

上益城地域振興局林務課長 林業従事者の確保については、緑の雇用事業で新規就業者には研修を受講させているほか、矢部高校には緑科学科があるので、県の事業として森林組合に委託して林業体験をさせたり、

製材工場の視察などの就業支援をしている。
山都町長 ゴイシツバメシジミの保護について、養殖というか、増やすことはできないか。

熊本森林管理署長 大学の先生と連携して、シンランを増やして木に移植し、卵を産めるよう保護する取組をしている。また、定期的な巡視も行っているところである。



ゴイシツバメシジミ



九州育種場で検定中のエリートツリー候補木

地域林政対談 イン 熊本

平成29年5月12日(金)9:30~11:00

山都町役場会議室

出席者(敬称略)

○ 市町村長

上田 泰弘 美里町長
梅田 穰 山都町長

○ 熊本県

家入 浩 宇城地域振興局 林務課長
前田 健彦 上益城地域振興局 林務課長

○ 林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長
森 勇二 熊本森林管理署長
勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

